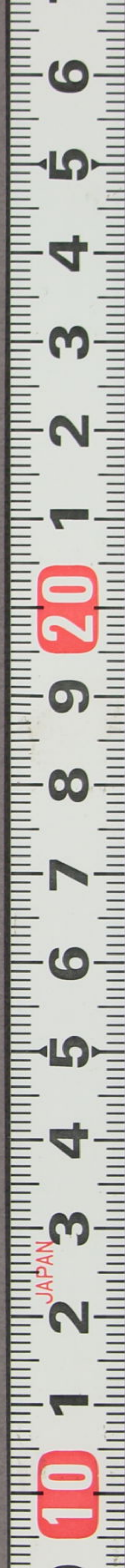


非
元治五首題

↑



元治五百題目録

秋之部

名月一	待宵二	今日の月	名月三
月見之	秋月	月	初月四
三日月	十六初月五	後の月	十三初月
跨田船六	文月	葉月	長月
初秋	立秋七	夕顔の秋八	七夕
星祭九	秋祭	桐葉	天の川十
燈	籠	言とらる	接たぬ
通火	送火十二	料市	泥祭
泥初	初経十三	生面泥	冬月

おとろり	十四	花火	十五	相撲	廿
新風	十六	忘扇	十七	二百十日	廿
露	十八	初汐	十九	稲妻	廿
野分	廿一	落葉	廿二	田莉	廿二
後彼處	廿一	八朔	放生会	新板	廿三
鳴子	廿一	泥水	栗山子苔	落木	廿三
深結	廿一	初雉	餅	秋の山	廿三
さゆ	廿六	新寒	初言	初寒	廿三
初言	廿六	初寒	冷	秋酒	廿三
秋日和	廿六	秋のこの也	長夜	秋の言	廿三
秋夜	廿六	秋の暮	秋の夜	秋の言	廿三
秋の雨	廿二	秋の霜	柿	約言	廿二

相葉	廿五	菱	柳	廿二	菊	廿四
木槿	廿五	葛の花	葛の花	廿六	嵐角子	廿六
蔓珠沙花	廿五	初言	花	廿六	萩	廿六
萩	廿九	初言	蕎麦の花	廿六	唐辛	廿六
糸瓜	廿二	瓢	蘭	廿三	芭蕉	廿四
花畑	廿二	桔梗	落	廿三	紫苑	廿四
野菊	廿二	鳳仙花	雞頭花	廿五	鬼灯	廿五
葵の花	廿二	稻	銀杏	廿六	菊	廿六
尾花	廿七	末枯	烏爪	廿八	梅	廿八
ゆらぎ	廿七	木実	菌	廿八	茸かり	廿八
粟	廿九	苔	州紅葉	廿九	紅葉	廿九
木織前	卅一	菜堀	虫	卅二	松虫	卅二

響虫	秋の蝶	秋の蝶	秋の蚊
みの虫	蜻蛉	まじく虫	竈馬 五十五
蜂	蜂	冬虫	綿雀 五十六
烟	後鳥	鳥	百舌鳥 五十八
啄木鳥	鶺鴒	鳴	紅燕
尾越鳥	麻	九月	秋葉 五十一
冬迫	秋行		

大凡百五十八歌

元治五百歌目録

雪	冬之歌	吹雪	初対雨
	一	四	

時雨	霜	雪	霜
冬ノ雨	水柱	神々月	小春
霜月	師立	初冬	冬玉
神送	神の笛	神迫	美子
神楽	十夜	幸广忌	水命
冬を忌	水取城	水仙名	神々
冬念仏	大師講	菖菘	木ノ葉
冬木立	木枯	枯柳	花
枇杷花	山茶花	やつ手	冬ノ梅
宝梅	冬梅	冬牡丹	冬ノ仙花
枯尾花	枯蓐	茶花	冬菊
石菖花	冬菖	枯芦	冬枯

州枯	枯	大根引	芥菜
夏蔭	千鳥	鷓鴣	水鳥
冬	冬の燗	浮揉鳥	木鳥
暖鳥	寒苦鳥	鷹	冬の鳥
網代鳥	霖	秋真川	鯨突
菜鳥	袈	生海嵐	鯉
布衣	紙衣	寒	冬蔭
巨燧	埋火	頸巾	足袋
油蔭	燧系	火桶	火俵
髮金	捲	冬接	口切
雪車	振	凍	氷
		凍	納豆

精入	炭	冬の月	冬月
冬の日	襦八	鳴る山	冬の川
冬の日の	燧拂	冬田	冬の山
年の市	本木惣	候掃	候庭
岡見	石拂	年忌	新年
大晦日	年暮	去結	去結
	大凡百廿七	年約	

文治五石歌後句集

秋之部

中井高希の輯

和

秋の月や細虫は音の海の上
秋の月や夕の光を照らす
秋の月や冷たい空の音の海
秋の月やゆりかごの音の海
秋の月や涼しい空の音の海
秋の月や家志の音の海

有

福山 卓成 観壽 許十 梅生 其雲

明月中 影の海に 石の上
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影

春眠 一 旌 可 佛 永 眠 松 月 棠 桂 雪 月 泉 山 岳 裁 岳 水

月

清夜の 月影 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影

清夜 文 起 杜 年 空 山 斗 抱

月

月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影
月影や 影の海に 影の影

冰 蚕 雨 静 暮 卿

雨

雨切のなごみとあつたあつた
すゞしきうらみとあつたあつた
雲切のなごみとあつたあつた

春山
味石
知大
淡月

政頂
木洩

茶冠

月

見

月見の
柳洗
如々
二葉
すて
壽康
清石
弄水

泉嶺

秋の
水邊へ立ち来し秋の月
けしきのふと思ひや移る月

可頂
奔水

月

藤原とある雨声 月より
藤原とある雨声 月より
浪あつ音くくわのせきまに架
月あ雲をひのひ 月より
藤原とある雨声 月より
入りし虫のけしきや月の奔
別れ道の時きこふる音の月

月
負武
智礼
柙眠
梅海
卜峰
梅露

秋
月

あき〜秋の月〜月より
秋の月〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より
あき〜秋の月〜月より

信濃
筑後
山登
北条
来交
来仙
来風
如新

幸はしむるも... 昔の月
昔の月... 昔の月
昔の月... 昔の月
昔の月... 昔の月
昔の月... 昔の月

昔の月
昔の月
昔の月
昔の月
昔の月
昔の月

寸夜

物... 物... 物...
物... 物... 物...
物... 物... 物...
物... 物... 物...

物...
物...
物...
物...
物...
物...

田

田... 田... 田...
田... 田... 田...
田... 田... 田...
田... 田... 田...

田...
田...
田...
田...
田...
田...

文

文... 文... 文...
文... 文... 文...
文... 文... 文...
文... 文... 文...

文...
文...
文...
文...
文...
文...

月

月... 月... 月...
月... 月... 月...
月... 月... 月...
月... 月... 月...

月...
月...
月...
月...
月...
月...

長 節柄不長月時一芒州
存 長月や雲思ぬ日知十日結

智角
承文

秋

幼秋や横らそをぬのひより
まの秋や露のほろろ水の露
幼秋や朝のひとの顔より
幼秋の露ぬるるの佳き時
秋あきのひをそよふや浦の家
まの秋や物よりのまの入りのま
幼秋の河を流る地根のぬ

寸夜
子来
茶外
玖瑩
如親

秋

幼秋やまの伸たのまの夏
幼秋や掃渡漸く朝の水

初月
櫻樹

立

幼秋やまのまのぬの月
秋のつや花のたの秋の露
あきのつや花のまの秋の露
魁美の露の秋のまの
秋のつや花のたの秋の露
秋のつや花のまの秋の露
秋のつや花のまの秋の露

知太
壯山
奇奔
梅圃
一節
木葉
律吟

秋

橋本所も海の中秋の音
秋をしのむか秋風波の音
鳴るる心秋をしのむか
秋をしのむか秋をしのむか
秋をしのむか秋をしのむか
秋をしのむか秋をしのむか
秋をしのむか秋をしのむか
秋をしのむか秋をしのむか

而聽
揮曉
秋
林
秋
秋
秋
秋
秋

秋風

橋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風
秋の音と秋風

秋
秋
秋
秋
秋
秋
秋
秋
秋
秋

七

ノ

七色色 七色の音
七色の色 七色の目
七色の花 七色の香
七色の鳥 七色の声
七色の木 七色の葉
七色の水 七色の氷
七色の土 七色の石

源柳 入糸 草餅 菓作 梅那 木公 菊水 其登 数月

目

承

目承 目承の音
目承の色 目承の目
目承の花 目承の香
目承の鳥 目承の声
目承の木 目承の葉
目承の水 目承の氷
目承の土 目承の石

天起 柳園 晴河 栗堂 甚凡 浦女 姜娘 芳古 知古

新 黄の雨と秋の糸の香らしし
 風やしの舞、秋の糸の度
 徳松 朱父

枕 枕の夢ふきとまらぬ秋の香
 枕の葉や二葉をまきとまらぬ
 雷蒲 作陽

この世はまはるゝ一文も
 古の世はまはるゝ一文も
 ちの世はまはるゝ一文も
 川の世はまはるゝ一文も
 山の世はまはるゝ一文も
 谷の世はまはるゝ一文も
 川 山 谷 川 山 谷 川 山 谷 川

為山 倉用 北山 千布

天 秋の雨と秋の糸の香らしし
 風やしの舞、秋の糸の度
 徳松 朱父
 枕 枕の夢ふきとまらぬ秋の香
 枕の葉や二葉をまきとまらぬ
 雷蒲 作陽
 この世はまはるゝ一文も
 古の世はまはるゝ一文も
 ちの世はまはるゝ一文も
 川の世はまはるゝ一文も
 山の世はまはるゝ一文も
 谷の世はまはるゝ一文も
 川 山 谷 川 山 谷 川 山 谷 川

一 謙 木 公 二 葉 東 翠 秋 高 登 松 龍 東 弘 秋 秋

焼

野を焼くは銀河
松尾の焼くは銀河
焼くは銀河

赤松
金花
赤松

焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河

為山
文記
桂源
著書
聖書
二葉

焼

焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河

焼くは
一葉
田嶽
塵芥
葉雅
希水

焼

焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河
焼くは銀河

一葉
桐野
楽交

栞

栞のよき野にや新緑の
栞のよき栞のよき人栞ぬ
栞のよき二日栞一栞の目
栞のよき栞を栞栞の栞

す
栞
栞
栞
栞

色

色の中の色は色は色は
色の中の色は色は色は
色の中の色は色は色は
色の中の色は色は色は

色
色
色
色
色

送

送の中の色は色は色は
送の中の色は色は色は
送の中の色は色は色は
送の中の色は色は色は

送
送
送
送
送

栞

栞の中の色は色は色は
栞の中の色は色は色は
栞の中の色は色は色は
栞の中の色は色は色は

栞
栞
栞
栞
栞

栞

栞の中の色は色は色は
栞の中の色は色は色は
栞の中の色は色は色は
栞の中の色は色は色は

栞
栞
栞
栞
栞

琴

流石の嶺古草ふ所
あふをと為の流くさあふ
こころ柳ふらつしと淋し物の敷
流石やあふらつし月の流くさ
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし

流石 嶺古 草 流石
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草

里

柳

あふらつしあふらつしあふらつし

あふ 流石

柳

あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし

あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草

生身

玉

あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし

あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草

あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし
あふらつしあふらつしあふらつし

あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草
あふ 流石 嶺古 草

行

場ふへてふへし一海はる一也
相ふへてふへし一海はる一也
ふへてふへし一海はる一也
ふへてふへし一海はる一也
ふへてふへし一海はる一也
ふへてふへし一海はる一也
ふへてふへし一海はる一也
ふへてふへし一海はる一也

可佛
色存
深堂
希水
江之
反女
相安
新島
三巴

果

果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也
果ふへてふへし一海はる一也

素彦
朱光
帯水
玉川
智角
兜山
杜年
梅次

相

撰

古の如く新見をよめる南力が
猶も遠く相撰とせし見ゆべき
中世の如く南力が
志の如く南力が
都すの如く南力が
西に接するの如く相撰の如
其後の人をして南力が
解しつと元の南力が
古の如く南力が

清氏 識之 洗心 苞國 融岳 西蘇 山衣 三巴 清河

秋

の

明

清の如く南力が
其後の人をして南力が
解しつと元の南力が
古の如く南力が
都すの如く南力が
西に接するの如く相撰の如
其後の人をして南力が
解しつと元の南力が
古の如く南力が

揚生 可頃 翠松 長吟 永益 崇林 梅舟 其翼 礎敷 登汀

秋風のほろろ吹抜の物も
晴のころ林のうららかな秋の風
秋のやまの峰の峰の峰の峰

晴河
雲影
霧の

志

春をく日さしに花も散る
春の日のうららかな秋の月も
春の日のうららかな秋の月も
春の日のうららかな秋の月も
春の日のうららかな秋の月も

春の
林の
松を
葉の
一羽
晴河

舟

舟

あつた舟のうららかな秋の月も
舟のうららかな秋の月も
舟のうららかな秋の月も
舟のうららかな秋の月も
舟のうららかな秋の月も

清氏
其望
葉の
木名
松雲

二百
十日
十日
十日
十日

山
村
山

世の世や二百十のあはれ
の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ

雄鳥
岩水
御柳
一衣

神の世や二百十のあはれ
神の世や二百十のあはれ
神の世や二百十のあはれ
神の世や二百十のあはれ

水産
一袋
御柳
李舟

歌

世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ
世の世や二百十のあはれ

植藩
春水
昇三
柳生
二蝶
高橋
草草
千草
太香
奈凡

あまのこゝろをなほさすやあまの星
たのむにほろろとあまのこゝろの中
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星

白雲 清夜 雲霞 淡月 暮雲 夕圓 夕花 夕柳 夕雲 夕雨

初

あまのこゝろをなほさすやあまの星
たのむにほろろとあまのこゝろの中
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星
あまのこゝろをなほさすやあまの星

双林 木公 三巴 津吹 水鶴 楽交 南白 東一 舞水

香

夕香やの夜道の
晴るの香あはれり小籠
船の香あはれり一河
河の香あはれり思ふ
船の香あはれり由り
船の香あはれり
明船の香あはれり
船の香あはれり
人舟の香あはれり

見計
麟止
岳陰
山陰
有香
舟大
舟陽
香泉
香長

物

書

物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり
物の子や舟の香あはれり

卓香
清氏
自清
歌物
一
千
三
丹

船中をふりて麻や苗の川
 船中をふりて船を舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟

舟水
 花舟
 香山
 良船
 志々
 千仲女
 秋矣
 春曉
 珠明
 文足

野分

船中をふりて麻や苗の川
 船中をふりて船を舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟
 舟の舟を舟の舟の舟の舟

一虎
 菊翁
 舟水
 春眠
 清意
 葉仙
 二雲
 新香
 秋路

高き山に登りての道は我々の神

帯水

高松の山に先登りて一山を

山也

山に上りて山を望みし時山

原也

高松の山に上りて山を望みし

原也

高松の山に上りて山を望みし

清也

高松の山に上りて山を望みし

柳也

高松の山に上りて山を望みし

一也

高松

高

松

回

高

松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

高松の山に上りて山を望みし

高松

八部

八部やあつたれよ 新古今
八部や こときく こときく
八部や 田部 田部 新古今
八部や こときく こときく

新古今
松年
藤然
木公

教生會

一羽家 高師 蓮少 教生會
こときく こときく こときく
こときく こときく こときく
こときく こときく こときく

雲丘
物丸
桂思
井水

板

橋より こときく こときく
而 而 而 而 而 而
り 板 り 板 り 板 り

香山
舟昇
貞秀

子

子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子

雄部
御柳
中校
清因
向群
三巴

流
能

流の能なるは流の能なる
流の能なるは流の能なる
流の能なるは流の能なる

流能
能流
能流

流
水

流の水なるは流の水なる
流の水なるは流の水なる
流の水なるは流の水なる

流水
水流
水流

流
能

流の能なるは流の能なる
流の能なるは流の能なる
流の能なるは流の能なる

流能
能流
能流

秋 水 山

秋の山は水に映る如く
 水は山に流る如く
 山は水に映る如く
 水は山に流る如く
 山は水に映る如く
 水は山に流る如く
 山は水に映る如く
 水は山に流る如く

即ち
 如く
 一帯
 知者
 一笑
 秋水
 如山
 如鶴

水 山

秋の山は水に映る如く
 水は山に流る如く
 山は水に映る如く
 水は山に流る如く
 山は水に映る如く
 水は山に流る如く
 山は水に映る如く
 水は山に流る如く

青波
 快哉
 翠堂
 蕙葉
 荷風
 佳景
 秋景
 秋意
 秋風

秋

寺所也 蘇之 秋の 名 揚子
月止乃之 吉河 秋の 名 揚子
端 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
梅の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
赤乃乃の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
蘇乃乃の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子

蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃
蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃

秋

秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子
秋の 蘇乃乃の 蘇乃乃の 秋の 名 揚子

蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃
蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃 蘇乃乃

夜比世

かゝるに世の情をいふ
幽かなる揚子川の
舟の音も波の音も
静寂を招くもの
静寂 舟の音の歌
舟の音も波の音も
舟の音も波の音も
舟の音も波の音も
舟の音も波の音も
舟の音も波の音も

加菊 保之賢 葉傾 海巖 木公 三巴 青芝 朝乳 荷風

平歌

松の影をいふ

舟の音をいふ

舟の音をいふ

冷

冷の音をいふ

冷の音をいふ

冷の音をいふ

冷の音をいふ

松童

赤糸

赤糸

竹二

赤糸

赤糸

貞潔

新酒 新酒や餅をうたふ。一思案
 餅まじし新酒の長きし
 播磨の餅をうたふ

淡月 風山 羅山

秋 田つまい持柄を舞 秋日和
 岩をうたふ

仁美 智南

秋の 首のうたふ。秋のうた
 の名 石のうたふ。秋のうた

休月 良の

長 葉のうたふ。秋のうた
 の名 石のうたふ。秋のうた

休月 良の

秋の 葉のうたふ。秋のうた
 の名 石のうたふ。秋のうた

休月 良の

秋の 葉のうたふ。秋のうた
 の名 石のうたふ。秋のうた

休月 良の

秋

水

清らかなるる水の秋の聲
鳴る夢の心も秋の聲
灯の光も秋の聲
影の光も秋の聲
花の光も秋の聲
月と星と秋の聲
の形も秋の聲

一宜 涼柳 山橋 木公 柳橋 杜并 桂并 柳洗

く

秋

くさくさの草の秋の聲
秋の聲も秋の聲
新葉も秋の聲
さくさくも秋の聲
花の光も秋の聲
梅の光も秋の聲
空の光も秋の聲
海の光も秋の聲
秋の光も秋の聲
松の光も秋の聲

柳舟 竹色 清藤 露屋 一橋 一葉 泉嶺 雪水 夏柳 青羊

露

あつらひの露もはらふはるかな
浅草の露もはらふはるかな
あつらひの露もはらふはるかな

系 露
清 露
柳 頂

秋の

あつらひの秋もはらふはるかな
あつらひの秋もはらふはるかな
あつらひの秋もはらふはるかな

也 秋
也 秋
也 秋

あつらひの秋もはらふはるかな
あつらひの秋もはらふはるかな
あつらひの秋もはらふはるかな

帯 秋
新 秋
能 秋

何雨

あつらひの雨もはらふはるかな
あつらひの雨もはらふはるかな
あつらひの雨もはらふはるかな

如 雨
二 雨
霖 雨
松 雨
杜 雨

秋雨

あつらひの秋雨もはらふはるかな
あつらひの秋雨もはらふはるかな
あつらひの秋雨もはらふはるかな

圃 秋
桑 秋
春 秋
松 秋
能 秋

女

主

新紅のそまのふ様より秋は向

一古

秋の
薄しうと思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと

秋の
秋の

深神や名刺不滞き秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと

深神
秋の
秋の
秋の
秋の

柿

秋
秋の思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと

秋の
秋の

秋の
秋の思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと
秋の
秋の思ふ中り秋のしと

秋の
秋の
秋の
秋の
秋の

流水舞へし水邊守一葉也
空即尔物言の形一相の葉
庭園吹抜もあつたに葉
月のみと庭守の葉一相の葉
松のあつた形一相の葉
相の葉庭守の形一相の葉
思ふもあつたに葉
庭守の葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉

春想
群情
錦柳
文女
相如女
橋邊
魯春
雨群
思虎
三巴

教
松

あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉
あつたに葉庭守の葉

春想
群情
錦柳
文女
相如女
橋邊
魯春
雨群
思虎
三巴

草花 気

花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく

花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく

草花 気

花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく
花すくすく花すくすく

花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく
花すくすく

神の心は海にまはるる女は
あはれなる海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は

一谷 紫嶺 川仙 泉山 育水 子来 文女 為来 東一 生一

東 檀

川の心は海にまはるる女は
あはれなる海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は
海にまはるる女は

清喬 海泉 木公 津治 希水 大 藤子 木公

折ふ草と申すはさうじゆ種
物と申すはさうじゆ種

也仙
飛丸

葛のつぼ
海まきのつぼ
つぼ

浪調
真史

藤のつぼ
つぼ
つぼ

葉飲
也仙
龍史

瓜のつぼ
つぼ
つぼ

松尾
牛尾
也仙

葛のつぼ
つぼ
つぼ

茶外
也仙

つぼ
つぼ
つぼ

名山
舟席
松頂

あ
 如龍の如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに

か
 清馨
 其面
 雨荷
 鳳山
 木史
 文女
 子桑
 雄鳥
 古大
 如鶴

の
 梅脚
 一節
 弓殺
 芳古
 柳舟
 破高
 道吹
 一葉
 葉探
 一喚

月
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに
 如くもつとくはるかに
 あらゆるものもあつたに

蘇州の山にありては松の多し
あまたの松ありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し

其
蘇
泉
可
五
介
金
春
瑤
水

松

松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し
松の多しありては松の多し

其
蘇
泉
可
五
介
金
春
瑤
水

香もよみし露もよみし萩の香

露水

吟神も萩もよみし月夜

等哉

増し給ふと通水は萩の露

夜子安

しの年切や萩の抽きし

露眼

あし月よと萩もよみし萩の露

童
清心

萩の露も萩の露の上はきし

月露

果もよみし萩の露もよみし萩の露

露草

雨の露も萩の露もよみし萩の露

文女

萩もよみし萩もよみし萩もよみし萩の露

廿月

萩

萩の露も萩の露もよみし萩の露

梅文

萩の露も萩の露もよみし萩の露

風山

萩の露も萩の露もよみし萩の露

清馨

萩の露も萩の露もよみし萩の露

一朗

萩の露も萩の露もよみし萩の露

三巴

萩の露も萩の露もよみし萩の露

曇紙

萩の露も萩の露もよみし萩の露

杉雨

萩の露も萩の露もよみし萩の露

葉堂

萩の露も萩の露もよみし萩の露

真水

萩の露も萩の露もよみし萩の露

晴々

山にありて花の香に
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山

山月 一昔 東雲 一衣 一洞 松花 如蟠 界水

花の物

春の
花の

花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山

花月 一昔 東雲 一衣 一洞 松花 如蟠 界水

花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山
花の香にありて山

花月 一昔 東雲 一衣 一洞 松花 如蟠 界水

早

早

復 []

Handwritten cursive text in the right column of the right page, consisting of approximately 12 vertical lines of characters.

雨 靜
江 三
春 燕
休 磨
鞋 山
也 是
東 舉
雙 氏
知 六

系 瓜

Handwritten cursive text in the right column of the left page, consisting of approximately 12 vertical lines of characters.

柏 車
於 水
也 仙

瓜 瓜

Handwritten cursive text in the left column of the left page, consisting of approximately 12 vertical lines of characters.

清 氏
貞 人
木 公
如 仙
菓 仙

マキ

里

菜

花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春

松頂
菜

芭蕉

花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春

菜用
風山
来月
仁美
後調
角子

花

花

花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春
花のや菜の香もあつた南の春

花頂
慕眠
子来
空義
松水
狐眠
李城
菜郎

栝 投

栝投の根を煎じて水に投じて
 飲む。或は酒に投じて飲む。

栝露 如蟾

食用

清氏

壯山

栝

暗河

東舉

如蟾

栝

栝投の根を煎じて水に投じて
 飲む。或は酒に投じて飲む。

泉類 乙良

為山

等裁

清氏

奇雨

十三歳

自聖

栝脚

時の松の如くはてしなく
極えのうへにのこるはるる
葉の面々のうへに極ぬ花
吹の如くはてしなく
何れもはてしなく
物事の中心にありて
妙用のなまめたるは
手あはれはてしなく
船の如くはてしなく
朝の如くはてしなく

節哉
梅曉
一昨
春考
春月
文所
梅眉
李月
重次
昂水

紫苑

花の如くはてしなく
地獄の如くはてしなく

和晴
梅溪

野

河初はてしなく
花の如くはてしなく
山陰の如くはてしなく
柳の如くはてしなく
東の如くはてしなく

江之
木公
象作
山陰
柳
東一

風心

秋風吹く中夜を思ひ風心
風心は秋の月夜を思ひ
梅よりあけぬ風心

可頃
嵐先
木交

鶯

鶯のやまを思ひ一羽法師
少座を思ひ鶯のやまを思ひ
鶯のやまを思ひ一羽法師
鶯のやまを思ひ一羽法師

清民
御柳
玉浦
作
著

鶯

鶯のやまを思ひ一羽法師
鶯のやまを思ひ一羽法師
鶯のやまを思ひ一羽法師

二案
頂
木交

鶯

鶯のやまを思ひ一羽法師
鶯のやまを思ひ一羽法師

如鶴
木交

鶯のやまを思ひ一羽法師

松崎

物

無福の千のりきや葉の風
影くも影のくもよ福の雲
是世の福物捨て他界に
福則て福ぬらして福戸に
通る火のきく福にほよぶ
福前へ福ゆらして福山

竹陽
他山
自武
智乐
茶外
山岳

銀

あつちのりきや葉の風
影くも影のくもよ福の雲
是世の福物捨て他界に
福則て福ぬらして福戸に
通る火のきく福にほよぶ
福前へ福ゆらして福山

也の
也の
也の

菊

海舟ふりきや葉の風
影くも影のくもよ福の雲
是世の福物捨て他界に
福則て福ぬらして福戸に
通る火のきく福にほよぶ
福前へ福ゆらして福山

菊山
氷壺
立石
来月
鏡裏
福飛
花月
菊室
茶外
茶外

空海 一 流のくまのやうな
 白濁のまじりたる花の
 横江のまじりたる人の
 色も不潔きまじりの
 卯のまじりたる花の
 一 宿のまじりたる人の
 糸のまじりたる花の
 陽のまじりたる花の
 去のまじりたる花の
 去のまじりたる花の

紫雲 龍尾 茶眼 其翼 一宜 梅園 一物 松琴 孤乞 岳抱

尾 也

新也 一 時をたぬ
 白濁のまじりたる花の
 糸のまじりたる花の
 陽のまじりたる花の
 去のまじりたる花の

津吹 氷月 如鶴 梅笠 卓席

一 葉のまじりたる花の
 糸のまじりたる花の
 陽のまじりたる花の
 去のまじりたる花の

杉敷 楽忌 喜水 文女

五

七

左眼少古片を編む。其意
月うらととを片とて戦ふ

葉上
清良

東

東林やゆふを思ひいつ
東林や朝ふ類高き朝の鳥
東林や草花屋と悦みし
東うらととと教わうとと免

清古
一物
奇取
其因

松

松とて事松所やうとす
折る物眼とやとて鳥爪

松為
智角

鳥

瓜

松とてつと地とあつて鳥爪
松とあつてつと地とあつて鳥爪

樽高
帯水

梅

梅とてあつてつと地とあつて鳥爪
梅とあつてつと地とあつて鳥爪
梅とあつてつと地とあつて鳥爪
梅とあつてつと地とあつて鳥爪

負海
川古橋
素服

娘

梅とあつてつと地とあつて鳥爪
梅とあつてつと地とあつて鳥爪
梅とあつてつと地とあつて鳥爪
梅とあつてつと地とあつて鳥爪

梅枝
木交

アキ

果

木の
葉の
しほり

年値
帯水

菌

きのこ
きのこ
きのこ

子来
来交

草

草
草
草
草

桐
梅
松
松

葉

葉
葉
葉
葉

又
帯
竹
月
楓

草

草
草
草

一
晴

林

松

鐘聲のこゝろはけしきなり
照らすて水は流もやまぬ
此處より北へ西に州の
植のくわりのまやまの葉
若のくわりのまやまの葉
赤いものまやまの葉
雲のくわりのまやまの葉
指先は城州のくわやまの葉
まのくわりのまやまの葉

松頂 貞勝 松基 素琴 松隣 三巴 素良 松火

松

松

鐘聲の神意通る松葉の
くわりのまやまの葉
尼ちや松葉のまやまの葉
夕陽のまやまの葉
松葉のまやまの葉
松葉のまやまの葉
まやまのまやまの葉
月影のまやまの葉
松葉のまやまの葉
松葉のまやまの葉

清氏 市陽 其花 乃母 太山 海龍 一朗 丹尺 善吉 松月

雪

雪のやまの思ふ雪の跡に
梅の香のあふく雪の跡に
むらさきの雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に

茶 竹 松 溪 有 清 歌 雨 良 鑿

雪のやまの思ふ雪の跡に
梅の香のあふく雪の跡に
むらさきの雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に
雪のやまの思ふ雪の跡に

知 大 静 史 露 草 交 女 一 如 月 如 痕 味 抱 如 鶴 希 水

松

松のやぶのふもとに
しんせいの木が立ちあがり

乙良
赤木

蕨

蕨のふもとの木が
あまたの葉をひらき

子良
赤木

柳

柳のふもとの木が
たけのこをひらき

春風
松尾
李月

秋

あまのふもとの木が
神のまへにたてまつり
川をわたりて秋の
日よけの葉をひらき
葉推しの木が
あまたの葉をひらき

三柳
沈舟
可佛
持の女
良才
松尾

秋

秋の木の葉が
秋の夜をまぎらす

や良
赤木

あ
の
忠

いさよふかきあはれ
養育のまや木深の清も
養育のまや木深の清も
清と流のまや木深の清も

清月
三鳥
や仙
菊慕

情

いさよふかきあはれ
情のまや木深の清も
情のまや木深の清も
情のまや木深の清も

清月
梅園
山桂

吟

いさよふかきあはれ
吟のまや木深の清も
吟のまや木深の清も
吟のまや木深の清も

や仙
皓月
梅清

可

いさよふかきあはれ
可のまや木深の清も
可のまや木深の清も
可のまや木深の清も

路池
高風
如親
化山
持のあ
脈来

長とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登
一とつゝ。花のあはれ。川 登

長尺
三翼
三
雨靜
泉作
岩瀆
圓磨
帯水
泉作

電

清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登

清輝
長山
照嬰
保之賢
袖花

陣

清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登
清輝の中。花のあはれ。川 登

清輝
泉嶺
寸我
也仙

陣や煙のそよぐは湖

春山

鳩

鳩鴉や何と白鷺の枝の蔭
鳩鴉の大波はうらやうや

赤月
若菜

空

流の音ふき砂の如く。あまの年
空を飛ぶ鳥の影もくもく
飛ぶ鳥の影もくもく
空を飛ぶ鳥の影もくもく

如物
李舟
杜年
向静

物

一帯の二ふもを色しあう夜
物産もす。鳥の影もくもく
いふ物産もす。鳥の影もくもく
いふ物産もす。鳥の影もくもく
いふ物産もす。鳥の影もくもく

園生
赤木
叶研
紫籟
豊真

月

月や西雲の影もくもく
月や西雲の影もくもく
月や西雲の影もくもく
月や西雲の影もくもく
月や西雲の影もくもく

赤月
赤草
雄鳥
赤圃
赤月

晴々 川 雨 花 江 其 正 龍 作
 々 仙 靜 汀 國 路 友 村

為 山 善 哉 公 大 也 仙 甚 馨 其 凡 楸 園 其 處 智 南 二 新

上

下

鳴

鳴るるをいふは鳥の音なり
鳴るるをいふは水の流れなり

希水
何れ哉
希水

鳴

鳴るるをいふは鳥の音なり
鳴るるをいふは水の流れなり
鳴るるをいふは鳥の音なり
鳴るるをいふは水の流れなり

桐部
鳥一
豊々
壺々
素純

鳴

鳴るるをいふは鳥の音なり
鳴るるをいふは水の流れなり
鳴るるをいふは鳥の音なり
鳴るるをいふは水の流れなり
鳴るるをいふは鳥の音なり
鳴るるをいふは水の流れなり

清氏
素草
水水
松晴
鳥松
龜鹿
素交
希水

以 蕪

ついでに... 蕪

平家 良只

鹿 鹿

鹿... 鹿

五泉 木交

若多... 鹿

水陽 桐野 杜年 梅仙

鹿

鹿... 鹿

正奇 生茂 飯花 素哉 春山 柳野 旅鳥 珠明 卜添 喜文

九月

秋深くも長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま

可也城
月露
徳雄
知春
来交
界水
名山
林鶴
杜年

九月

清き月の夜も静かに
あつて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま

や仙
来交

夕の光も静かに
あつて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま

来交
来交

九月

地味も静かに
あつて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま
のりて長少の月一箇のま

露草
清良
智角

以

秋

以秋とありてはまをぬ柳子
以秋やまのふ深し山の毛
以秋や風をきくぬきりの末
以秋や長しき白く小田の鳥
以秋や身痛むるも夕日私

晴河
苔石
菜穂
秋実
菊水

文治五る歌後句集

冬之歌

中井房春水輯

中

也

とてし遠く懸て懸て松の雪
家もくも人あり雪の衣
折盡し竹や七つをく雪の洞
白ひらきしもの白ひらきの雪
雪降るや七つをく雪の洞
松ありては松ありては松あり

為山
梅笠
松花
雪洞
雪降
松あり

一羽翫立あはれりやあきの鳥
仲も鳥見ゆりやゆきまの縁障
義うしや見違ふもあはれ鳥
けあはれりやゆきまの縁障
竹の葉のあはれりやゆきまの縁障
雪のあはれりやゆきまの縁障
松のあはれりやゆきまの縁障
雲のあはれりやゆきまの縁障
霞のあはれりやゆきまの縁障
霧のあはれりやゆきまの縁障
雨のあはれりやゆきまの縁障
雪のあはれりやゆきまの縁障
氷のあはれりやゆきまの縁障

藤松
干紫
風翫
栗堂
藤趾
可佛
米佳
真丈
山尖
一鳥

田小向く流るるをまやあきの鳥
雪のあはれりやゆきまの縁障
松のあはれりやゆきまの縁障
雲のあはれりやゆきまの縁障
霞のあはれりやゆきまの縁障
霧のあはれりやゆきまの縁障
雨のあはれりやゆきまの縁障
雪のあはれりやゆきまの縁障
氷のあはれりやゆきまの縁障
霜のあはれりやゆきまの縁障
露のあはれりやゆきまの縁障
霧のあはれりやゆきまの縁障
雨のあはれりやゆきまの縁障
雪のあはれりやゆきまの縁障
氷のあはれりやゆきまの縁障

計松
智乳
素考
希艾
素慶
素母
素純
一葉
旅鳥
菊翁

重止りく推しのとや朱中宿
服ふうく木の節まきあやの香
あまのくやあふさくあまの節
枯つくすあまのくあまの香
あまの節くあまのくあまの香
下上あまのくあまのくあまの香
物くまけく限やあまの山
物くまけくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香

古香 道圓 正己 快哉 梅存 玉川 音琴 笑乐 物暖 日向

あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香
あまのくあまのくあまの香

得能 夏極 一講 傳之賢 古大 天丸 静史 系京 清真 一知

近き松のすゝめ 故の松
あめしゝ松の松のすゝめ
あめしゝ松の松のすゝめ
あめしゝ松の松のすゝめ
あめしゝ松の松のすゝめ
あめしゝ松の松のすゝめ
あめしゝ松の松のすゝめ
あめしゝ松の松のすゝめ

菁莪 芦水 梅嶺 松崎 年交 松頂 空山 雨靜 松尾

初

會

日少松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ

木公 飯飛 月仙 政頂 菓作 為定 希水

次

松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ
松のすゝめ 松のすゝめ

松嶺 菓作

神河

推し来たりし由をいふは
照りたるの如くは
山嶺の是れは

知麦
松隈
糸水

野舎の柱をよそへ神河
中よりあかす。ゆきよは神河
船場の地をよそへ神河
神河の菊の葉をよそへ神河
古木の轍眼をよそへ神河
長き物ふとよそへ神河

松頂
盤園
竹哉
陽室
甚梨
竹陽

志 ぐ 神

滝と湖雨の中より神河
河先の地をよそへ神河

松琴
松崎

河のよそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河
よそへ神河

水壺
等哉
梅屋
河津
河津
河津
河津
河津
河津
河津

河内一帯は我の松と雲の
江守と星と大星と河内
雲の只能のや河内
河内下々の松と雲と
松と雲と河内の一帯
を松の河内と雲の中
雲の河内と雲の河内
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲

若古 素秋 成星 扇海 松雲 如々 松月 雲楊 素哉

河内と雲の河内と雲
松の河内と雲の河内
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲
河内と雲の河内と雲

總松 素秋 成星 扇海 松雲 如々 松月 雲楊 素哉

湯の煮く、涼子海、河、
鳴、此、を、雲、を、雨、を、ぬ、く、
を、ま、ま、ま、ま、海、を、ま、ま、ま、
湯、を、す、や、南、を、の、葉、の、敷、河、
を、ま、ま、ま、ま、河、を、ま、ま、
を、ま、ま、河、を、ま、ま、の、や、
ま、ま、ま、の、照、や、河、の、ま、ま、
柳、枝、く、く、河、の、ま、ま、
粒、く、の、雨、を、ま、ま、ま、
ま、用、ま、ま、河、の、ま、ま、

煮、煎、
一、煎、
仁、星、
花、の、如、
陸、年、
正、治、
梅、園、
鹽、水、
東、一、
柳、雨、

く、く、く、く、河、を、ま、ま、
希、く、の、ま、ま、河、の、ま、ま、
入、お、や、河、の、ま、ま、
漸、す、く、く、ま、ま、ま、ま、
深、ぬ、木、を、照、か、ま、ま、
水、音、ま、ま、ま、ま、
法、古、の、河、の、ま、ま、
河、の、ま、ま、河、の、ま、ま、

柳、花、
暮、雨、
一、餅、
水、月、
淡、月、
昨、陽、
對、月、
楓、山、
舞、水、

霽

鳥さ木山羽と巡遊寸霽や
雲の影をたはききききき

太香
木交

霽

ききききききききききき
ききききききききききき
ききききききききききき
ききききききききききき
ききききききききききき
ききききききききききき
ききききききききききき
ききききききききききき

鬼山
林丹
林山
當在
園生
縣山
三巴

霽

乾き田や物端の目と雲の
ききききききききききき
何れ物も鳴ぬ松風の雲は
しききききききききききき
物布ぬ人掃とくまをたき
む、影、きききききききき
面止むゆいゆいゆいゆい
物布や新法、きききききき
世の世、きききききききき

三松
圭々
松雲
帯水
為山
若古
一碧
空水
山笑

川舟や昔一重やうも秋のし
く早過ぎ去りたるをうらむるも
神楽のいふ秋のうらむるも
秋の海 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも

素風 巖山 藤松 文女 文之 舟露 雨舞 一仙 秋責 丹桂

舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも
舟のうらむるも 舟のうらむるも

津陽 伊折 諸馨 其馨 清龜 愚菴 金尾 糸月 露氷

水 雨 水

雲の雨はまゝ雨は水の海を流す
水の雨は流すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては

雲水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水

水

水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては

雲水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水

水 雨 水

雲の雨はまゝ雨は水の海を流す
水の雨は流すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては
水の雨は雨に指すもたつては

雲水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水 雨水

十月廿二日

芭蕉

庭井の草花

庭山

降音や清い水

清音

新地甲の静けさ

新地

生花の香も

生花

清泉の流るる

清泉

ゆき

梅窓

梅の枝も

梅平

ゆき

寿楽

山
雪の思ふ山

山雨

暮春の中程

雨静

花の影

花梅

田舎

静地

知る

知麦

梅の影

夕景

吟

吟風

花

花近

海

下海

江

江島

物も松子のまゝに
何れも一年のまゝに
川舟も家路にまゝに
雪のまゝに
曲。雪窟む破と作を
音とつら松。山も松

松池
有隣
素齋
希水
陽室
二輪
清氏
杜山

霜

竹
花

花と竹と
竹と花と
竹のまゝに
花のまゝに
竹のまゝに
花のまゝに
竹のまゝに
花のまゝに

花葉
生一
菊向
卜海
三松
雄島
三巴
竹坡
竹卷

幼
花

水

水の清濁は草木の枯榮に依りて清濁を分る。水は草木の根に依りて清濁を分る。水は草木の葉に依りて清濁を分る。水は草木の花に依りて清濁を分る。水は草木の果に依りて清濁を分る。水は草木の實に依りて清濁を分る。水は草木の根に依りて清濁を分る。水は草木の葉に依りて清濁を分る。水は草木の花に依りて清濁を分る。水は草木の果に依りて清濁を分る。水は草木の實に依りて清濁を分る。

白濁 黒濁 赤濁 青濁 黄濁

神

神の清濁は草木の枯榮に依りて清濁を分る。神は草木の根に依りて清濁を分る。神は草木の葉に依りて清濁を分る。神は草木の花に依りて清濁を分る。神は草木の果に依りて清濁を分る。神は草木の實に依りて清濁を分る。神は草木の根に依りて清濁を分る。神は草木の葉に依りて清濁を分る。神は草木の花に依りて清濁を分る。神は草木の果に依りて清濁を分る。神は草木の實に依りて清濁を分る。

友松 原母 友程 清電

神

神の清濁は草木の枯榮に依りて清濁を分る。神は草木の根に依りて清濁を分る。神は草木の葉に依りて清濁を分る。神は草木の花に依りて清濁を分る。神は草木の果に依りて清濁を分る。神は草木の實に依りて清濁を分る。神は草木の根に依りて清濁を分る。神は草木の葉に依りて清濁を分る。神は草木の花に依りて清濁を分る。神は草木の果に依りて清濁を分る。神は草木の實に依りて清濁を分る。

豊泉 竹枝 大雅

神

神の清濁は草木の枯榮に依りて清濁を分る。神は草木の根に依りて清濁を分る。神は草木の葉に依りて清濁を分る。神は草木の花に依りて清濁を分る。神は草木の果に依りて清濁を分る。神は草木の實に依りて清濁を分る。神は草木の根に依りて清濁を分る。神は草木の葉に依りて清濁を分る。神は草木の花に依りて清濁を分る。神は草木の果に依りて清濁を分る。神は草木の實に依りて清濁を分る。

甚九 榮怡

神子

あるは徳可新く人々皆より
市の金割きくや此は徳
屋並皆羨むや如地は徳
多のふくはむや如徳
市も亦のふくや如徳

江云
一表
若桃
松旭
昂水

神

月松の徳のふくや如徳
あり中の羊の徳のふくや如徳
松月の徳のふくや如徳

清民
許十
桃山
桐野女

やと替ふ木の徳のふくや如徳
ふく徳のふくや如徳

晴月
来交

十
長
あるは徳可新く人々皆より
野宮一男と徳一十夜如
のふく十徳のふくや如徳
替ふの徳のふくや如徳
此徳を徳のふくや如徳
あり中の羊の徳のふくや如徳
松月の徳のふくや如徳

御柳
一表
二巴
晴河
愛堂
若考
松月

木

清乃のあやうき木乃のあやうき

双鶴

風や山崎のあやうき木乃のあやうき

雄鳥

木乃のあやうき木乃のあやうき

梅園

木乃のあやうき木乃のあやうき

木史

風や山崎のあやうき木乃のあやうき

鳳山

木乃のあやうき木乃のあやうき

一鶴

木乃のあやうき木乃のあやうき

扶橋

風乃のあやうき木乃のあやうき

孤眠

木乃のあやうき木乃のあやうき

快哉

松

風の中は地り高き松のあやうき

北山

木乃のあやうき木乃のあやうき

松柳

風や山崎のあやうき木乃のあやうき

深山

木乃のあやうき木乃のあやうき

系星

風や山崎のあやうき木乃のあやうき

清堂

木乃のあやうき木乃のあやうき

長春

風乃のあやうき木乃のあやうき

双鳥

風や山崎のあやうき木乃のあやうき

奇水

松を乃のあやうき木乃のあやうき

清山

松

松

らと志をて松の柳の如
松くの柳もあゝ長門の
松柳の如く松の乳を
樹の如く日影をまて松柳

貞人
竹陽
竹枝
翠水

木の枝を松とて柳の如
山影の端をくたてて柳の
葉の如くこらへて柳の如
日の影を柳の如く柳の如
る松の如く木影の如く柳の如

為山
水壺
松生
松奇

一

元

三

元

木の枝を松とて柳の如
山影の端をくたてて柳の
葉の如くこらへて柳の如
日の影を柳の如く柳の如
る松の如く木影の如く柳の如

一
為山
水壺
松生
松奇

山をこしふゆ桶乾くは月白の由
山をこしふゆ桶乾くは月白の由
山をこしふゆ桶乾くは月白の由

泉嶺
花友
舞水

あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

春野
東皇
塵封

あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

李鳳
李鳳

あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

梅露
電松
菊露
竹村
正次

あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

立平
瑞室
希水

寂しき夕の聲も水も白く 霽水

流華の通ふ水は松の影に 貴乃

松の影に水は流るる松の影に 仁皇

可なりとて流るる松の影に 重松

松の影に水は流るる松の影に 源慈

松の影に水は流るる松の影に 松の如

松の影に水は流るる松の影に 川仙

松の影に水は流るる松の影に 桑修

松の影に水は流るる松の影に 恭職

一の

也

尾

也

松尾

松の影に水は流るる松の影に 其響

松の影に水は流るる松の影に 東一

松の影に水は流るる松の影に 鬼若

松の影に水は流るる松の影に 菁菴

松の影に水は流るる松の影に の子女

松の影に水は流るる松の影に 梅柳

松の影に水は流るる松の影に 希声

松の影に水は流るる松の影に 金花

松の影に水は流るる松の影に 木交

茶 女 心

茶の心は静かき心なり
茶の花は白く清き花なり
茶の葉は緑く清き葉なり
茶の香は清き香なり
茶の味は清き味なり
茶の色は清き色なり
茶の形は清き形なり
茶の質は清き質なり
茶の量は清き量なり
茶の味は清き味なり

清武 竹二 友記 着記 相記 雨静 二案 卯り 松雨

茶の心は静かき心なり
茶の花は白く清き花なり
茶の葉は緑く清き葉なり
茶の香は清き香なり
茶の味は清き味なり
茶の色は清き色なり
茶の形は清き形なり
茶の質は清き質なり
茶の量は清き量なり
茶の味は清き味なり

素十 舞水

茶 女

茶の心は静かき心なり
茶の花は白く清き花なり
茶の葉は緑く清き葉なり
茶の香は清き香なり
茶の味は清き味なり
茶の色は清き色なり
茶の形は清き形なり
茶の質は清き質なり
茶の量は清き量なり
茶の味は清き味なり

平代女 柳生 實心 友甫

茶 女

茶の心は静かき心なり
茶の花は白く清き花なり
茶の葉は緑く清き葉なり
茶の香は清き香なり
茶の味は清き味なり
茶の色は清き色なり
茶の形は清き形なり
茶の質は清き質なり
茶の量は清き量なり
茶の味は清き味なり

合用 貞清

松のともやうにすくすく生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
松教 希水

水
松の葉の生るる松の葉の生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
林鶴 木交

松
松の葉の生るる松の葉の生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
清氏 竹月 至清 宗菴

松の葉の生るる松の葉の生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
希水

水
松の葉の生るる松の葉の生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
大費 晴河

松
松の葉の生るる松の葉の生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
圓廣 紫桂 希水

松の葉の生るる松の葉の生るる松の葉
葉の生るる松の葉の生るる松の葉
子傑

枯

枯野下思ふあはれ。古。鳥
をくつては。枯。枯。枯。の。の。
を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。

原雷 正路 素風 龍雨 春舟 柳鳥 梅枝 桑林 竹象 松鶴

習

中。中。中。中。中。中。中。中。
中。中。中。中。中。中。中。中。
中。中。中。中。中。中。中。中。
中。中。中。中。中。中。中。中。
中。中。中。中。中。中。中。中。
中。中。中。中。中。中。中。中。
中。中。中。中。中。中。中。中。

松花 山尖 雄鶴 竹月 素龜 風山 桑竹 三巴 竹十

大 招 奥 牙

終りのとちりおきや古松
 寄りの夕日結らる古松
 子ほらまゝあつた松古松
 河津と松くさる古松
 丹波と松くさる古松
 けいりつと松くさる古松
 けいりつと松くさる古松

徳雄
 甚馬
 小水
 松原
 星橋
 若机
 晴河
 餅干
 由儀

茶 麦 蒨

松の如く茶葉の如く玉
 竹やうと松くさる古松
 麦の如く茶葉の如く玉
 麦の如く茶葉の如く玉
 麦の如く茶葉の如く玉
 麦の如く茶葉の如く玉
 麦の如く茶葉の如く玉

快哉
 松原
 若机
 晴河
 餅干
 由儀

一羽の羽の...
浦河...
一羽...
...
...
...
...
...
...
...
...

一苦
皇胤
太山
園生
三巴
松林
研陽
源松
松海
乃思

鳥 類

...
...
...

奔水

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

他山
泰賦
善
一解
有撤
泉額
五群

水

子

水は清く流るるに似たり
水は濁るるに似たり
水は凍るるに似たり
水は乾くに似たり

水 子
水 子
水 子
水 子

水は清く流るるに似たり

水

水は濁るるに似たり

水

水は凍るるに似たり

水

水は乾くに似たり

水

水は清く流るるに似たり

水

水

水は清く流るるに似たり
水は濁るるに似たり
水は凍るるに似たり
水は乾くに似たり
水は清く流るるに似たり
水は濁るるに似たり
水は凍るるに似たり
水は乾くに似たり

水 子
水 子
水 子
水 子
水 子
水 子
水 子
水 子

参考

あまのついでに... 花魁

花魁

参考

あまのついでに... 小舟

小舟

参考

あまのついでに... 一舟

一舟

参考

あまのついでに... 松尾

松尾

あまのついでに... 泰殿

泰殿

水北境

千石の山ありあけの山あり
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心

子来 一程 持水 雙武 番山 又雄 江三 岩賀 土屋

水

千石の山ありあけの山あり
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心
流川の心あり流川の心

雙武 知麦 嵐笑 素風 舞水 沈襲 桑尾 桑尾

森

鳥の善く海に木城の御守
御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守

森堂
竹堂
帯水

御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守

森堂
竹堂

生

御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守

生
生
生

流

御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守

流
流
流

積

御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守
御成吉兵衛の御守

積
積
積

能子也 只此也 一也 一也

帶水

海 海 海 海 海 海 海 海 海 海

由儀

業

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

乙巳

野 野 野 野 野 野 野 野 野 野

仁星

喂

神 神 神 神 神 神 神 神 神 神

柳高

河 河 河 河 河 河 河 河 河 河

一洗

念

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

由儀

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

良可

也

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

松島

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

菊池

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

牛抱

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

鳥丸

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

舞三

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

龜膜

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

素野

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

一島

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

竹敷

くわんていしんもせきもをいふ
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた

如親
一
一
一
一
一
一
一
一
一

海のうらみもあつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた
新の産人あつてはつた

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

田舎の御堂の人の長権の
とて持ておる御堂の御堂

一 新柳

埴

埴の中や壺の中や
埴の中や壺の中や

一 水
一 交

火桶

火桶の中や
火桶の中や

一 清
一 朗

麦藁の御堂の御堂

一 麦

中

中の中や
中の中や

一 山
一 古

湯

湯の中や
湯の中や

一 塵
一 好

湯の中や
湯の中や

一 三

物

物家の造りや
物家の摩りや
物家の造りや

物
松林
貞人

物

物家の造りや
物家の摩りや
物家の造りや

一
貞人

口

口

口家の造りや
口家の摩りや
口家の造りや

口
貞人

物

物家の造りや
物家の摩りや
物家の造りや

物
貞人

物

物家の造りや
物家の摩りや
物家の造りや

物
貞人

物

物家の造りや
物家の摩りや
物家の造りや

物
貞人

雲を纏ひてのちのちのちのち

松林

星見くして格をくちくちと作り

麩餅

格

格や古の詞の如きものも自に

文雅

格の重なる事や故の流

月詠

格と兼る事やさうさうと

菓館

海

海は格やゆき舞の事や

雪草

海はゆき舞の事や

楽忌

松月の夜は格の事や

佳年

豆油

豆油は格の事や

山一

さうさうと格の事や

食用

秋風よあはれ格の事や

二葉

格の事や

巾被

格の事や

茶外

格の事や

一仙

格の事や

李順

楳

三

四三

炭

清月と揚子江のふりそよぶ
蘇杭の運びし文。楊柳を
枝折りて元来不流。楊柳を
とちりて結ぶ。そよぶ松竹
庭の思入ぬ中やうららかに
香のまじりて中やうららかに
清のまじりて中やうららかに
中やうららかに中やうららかに
中やうららかに中やうららかに

山炎 大費 雄石 蘇秦 江二 益長 有殿 秋野 悠原

舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

長野 甚国 智南 桑林 甚翼 外解 風至 董六 善家

生雲の影をうけての月
井の底を照らすの月
流石の静けさの月
白濁の濁りの月
松杉の影をうけての月
吹雪の静けさの月
晴切の静けさの月
雲の影をうけての月

海雲
松林
松崎
水月
木杓
一井
梅包
木交
江三

月

うららかな月
おぼろげな月
曇りゆく月
雲の影をうけての月

望人
芳水
二案
瑞頂

夕

夕陽の影をうけての月
遠くを照らすの月
おぼろげな月
雲の影をうけての月

暮雲
木杓
角止
赤糸
紫雲

町と指搦や青くまきやく
物あおきくまきやく指搦

如月
多賢

條

條のまや河の流のひり
まきやくまきやく

一
雄節

搦

ま

まきやくまきやくまきやく

鬼楽

英

まきやくまきやくまきやく

名山

まきやくまきやくまきやく

掛丸

年の年

船あつてまきやくまきやく
向あつてまきやくまきやく

橋
高橋
高橋

年

船あつてまきやくまきやく
向あつてまきやくまきやく

松垣
牡丹
柳雨

本

目

まきやくまきやくまきやく
まきやくまきやくまきやく

五
素風

清く静かに暮らす年を
一巻の如く暮らす年を

一巻
拖の巻

所
年

此年の暮るる人々の静かな
此年の暮るる人々の静かな
此年の暮るる人々の静かな

松頂
如鏡
松林
律吹

うららかなる年をのこす国は
美しき年をのこす国は

野井
池山

園

是

あつたつたの如く静かな園は
あつたつたの如く静かな園は
あつたつたの如く静かな園は

麦野
菊池
草園
寸紋
晴河

丸
挿

静かなる年をのこす国は
静かなる年をのこす国は
静かなる年をのこす国は

智角
楽交
象仙

去
中

勢流のうらまはるの味しる
唐土のやまのまきまき
懐儀

晴河
東交

去
臨

松崎やまを流のいづれ
雪一ふまぬら断やま隣

可成
良の

去
大
日

一ふふまぬら断やま隣
年ら利のいづれ
古味日
あふ〜やまのまきまき

清氏
二宗
東交

年

此

く

積

向あふ〜やまのまきまき
掃羅のうらまはるの味しる
唐土のやまのまきまき
懐儀
雪一ふまぬら断やま隣
あふ〜やまのまきまき
勢流のうらまはるの味しる
唐土のやまのまきまき
懐儀
雪一ふまぬら断やま隣

清氏
双垂
東交
柳内
東交
古香
東交
千真

嘉永五百題 愛川撰

全二冊

今人五百題 東溟撰

全二冊

續今人五百題 梅本為山撰

全二冊

同 三篇 全撰

全四冊

安政五百題 非禪居墨芳撰

全二冊

群玉集 小篁庵西撰 過日庵

全四冊

十萬發句集 洞海舍撰 一具菴撰

全四冊

發句類集 八采園撰

全二冊

名所千題集 四喜庵撰

全三冊

今人百家類題 過日庵撰

全二冊

近世十家類題 過日庵撰

全二冊

近世名家類題 全撰

全四冊

題林發句集 由誓撰

全四冊

安政附合集 半青居新南撰

全一冊

海內人名錄 惺庵西馬撰

全二冊

今七部集

全二冊

利根太郎 丁知撰 松本乃友 一樓撰

一二三 沙鷗撰 吉善菴 悠々撰

いふり 蒼虬撰 藤本 庚年撰

栗柿 小圃撰

曉臺七部集

全二冊

豎三集 瓜志中 齊家 依後日記
とるう教 秋の田 秋のふら

乙二七部集

全二冊

おのえ 口のたけ 耳さへ 等松紀行
菱村句集 子集 乙二句集 行 相今人の句

蒼虬發句集 過日庵撰

全二冊

風俗文選拾遺

全二冊

俳諧寂系 白雄撰

全二冊

全饒舌録 元木綱撰

全二冊

大補四季の持扇 山金堂撰

全一冊

是書四季の分り古事 虫の 州木を致 衣食お入 狂言を
かゝり 句の 見え あり した めし して

○掌中寸珍物

發句五百題 白雄撰

全二冊

芭蕉翁句集

全一冊

其角發句集

全三冊

嵐雪發句集

全二冊

乙由發句集

全一冊

慕太發句集

全二冊

發句新五百題 田喜庵護物撰

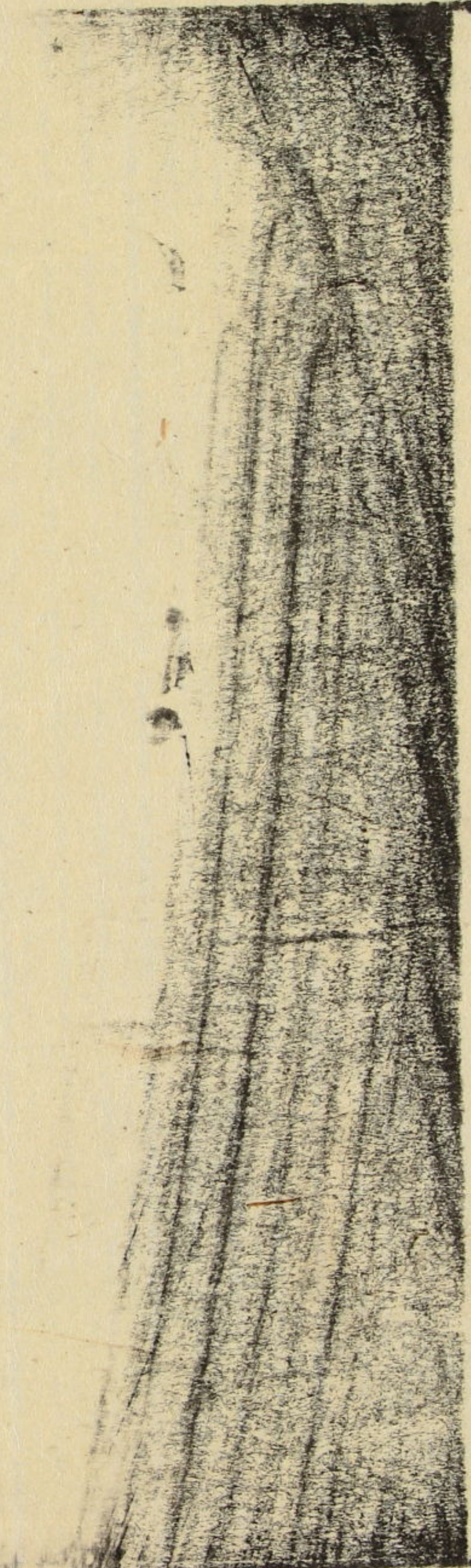
全三冊

發句古今撰 蟹

全一冊

俳諧四季草 翁始門人名家集也

全四冊



天下

登龍丸

食物一切

壹粒入

一包代百文

七粒入一巡り

代六百五文



たんにせきりょうおん一初まると多入妙薬

此の丸は天下の奇薬なり秘法にて煉成る由飲一毎りの
 の効業あり十年廿年病候よく治し痛之疾
 ありてくつ又困飲むる丸と云ふは痛疾ありて
 飲むる丸も極き一丸を粒を丸に巡り較余多し難疾を
 三巡りも判ゆる時忘れらる如く粒と治し疾を止す困飲は
 心をひく丸病全くいゆるり疑なき一丸にふり心
 丸の疲れを補ひ血をめぐらし一御胃を潤し力たま

あつらひたるよ一人として治せざるは一依り天下の
業少く休むれども一あるかかき切絶す
しども下業にさされたる婦人産む産後
を記し知るや強く用ひのりするに法たつと知る
下巻外に諸業多しはる色紙本は今時
とるは次所より味々下り

東叡山

御書物所

江戸下谷御成道

青雲堂英文藏製



江戸新法書は此所出し一色紙本より
味々下り

